

世界自然遺産の価値を守る東京都の取組

外来種対策の変遷

①自然環境の破壊



【裸地化による土壌の流出】



【食害による固有種の減少】

②犯人は・・・野生化したノヤギ！！



【ノヤギの群れ(父島)】

③ノヤギ排除対策



【ノヤギの追い込み】



【ノヤギを狙撃】



【ノヤギ追い込み柵】

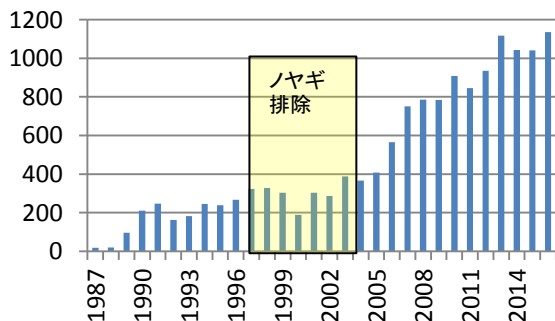
④ノヤギ排除対策の成果

	島名	島面積 (ha)	開始年度	終了年度	期間	排除数合計(頭)
聟島列島	媒島	137	1997	1999	3年	417
	嫁島	62	2000	2001	2年	81
	聟島	256	2000	2003	4年	940
父島列島	西島	49	2002	2003	2年	41
	兄島	787	2004	2007	4年	387
	弟島	520	2008	2010	3年	302
	父島	2,379	2010	継続中	5年～	2,770

※媒島、嫁島、聟島、兄島などで根絶。
父島だけとなり、排除作業継続中。

⑤帰ってきた鳥と植物！

聟島列島のクロアシアホウドリ繁殖雛数



※ノヤギを排除したことにより、地上に巣を作るアホウドリ類が安心して繁殖できる環境となり、雛が増加しました。



クロアシアホウドリ



ウラジロコムラサキ



コアホウドリ



コヘラナレン

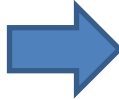
世界自然遺産の価値を守る東京都の取組

外来種対策の変遷

⑥ノヤギ排除後の変化



排除前 【2007年4月 兄島北端部】



排除後 【2013年2月 兄島北端部】

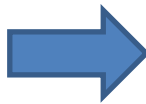
本来の植生回復と思いきや……

目立って増えた緑は外来植物のモクマオウ！！

⑦モクマオウ駆除対策



【枯死させるため
薬剤を注入】



【枯死した外来植物】

⑧固有植生(乾性低木林)を目指して

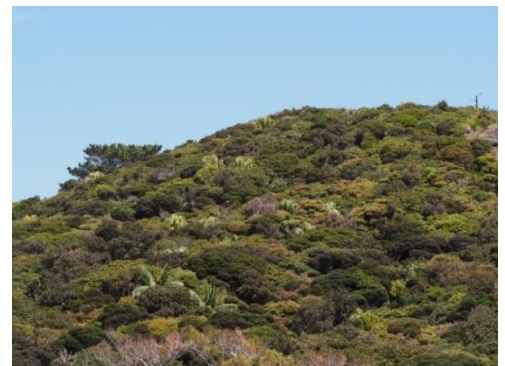
【ムニンアオガンピ】



【シマムロ】



【シマイスノキ】



【乾性低木林】

世界自然遺産の価値を守る東京都の取組

アカガシラカラスバト 保護増殖



飼育増殖したアカガシラカラスバト



上野動物園 繁殖センター（非公開）

東京都、東京動物園協会では小笠原で数を減らしていたアカガシラカラスバトを生息域外で飼育する試みを2001年にスタート。2002年には繁殖に初めて成功し、2016年3月現在、上野動物園と多摩動物公園で合わせて36羽まで殖えました。

アカガシラカラスバトの一部は上野動物園の正門前鳥舎で見られます

オガサワラシジミの保護増殖



オガサワラシジミ成虫(野生)



食樹 オオバシマムラサキ

↑オガサワラシジミ幼虫(飼育)多摩動物公園（非公開）

母島のごく限られた場所にしか生息しなくなったオガサワラシジミの生息状況の改善を進めるとともに、多摩動物公園において代を重ねる累代飼育技術の開発を行っています。

固有植物の保護増殖



ムニンノボタン

神代植物園では、「植物多様性保全」の観点から、小笠原諸島の固有植物 約30種を系統保存・栽培しています。温室の改修に合わせて、世界自然遺産である小笠原諸島の植物の展示を拡充させました。



オオハマギキョウなど

東京大学附属小石川植物園では、1981年から小笠原の固有植物の栽培と増殖を行ってきています。（写真は非公開温室）

外来種の侵入防止対策



おがさわ丸乗船時の靴の泥落とし



ははしま丸下船時の靴の泥落とし

新たな外来種の侵入防止対策として、東京港竹芝、父島二見港、母島沖港において、靴底洗浄を行っています。